



7月号

平成5年7月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

真剣勝負

騒がしいはずの教室に  
チヨークの音だけ鳴り響く  
肩に視線を背負いながら  
ちよつと澄ました君たちの顔

「いつもの調子でいいからね」

熱慮の末の發問に

「よくわからぬ」とつぶやく瞳

静まりかえった教室で

助けを求めてたたずむ私

「こんなはずじやなかつたのに」

授業が終わつた教卓に

使われなかつた隠しネタ

「先生、緊張していたね」

ほらきた、ひやかす君たちの声

でも、今日は本当にありがとう

〈研究授業〉



(どろんこあそび—竜美丘小)



# ふるさとシリーズ この人に聞く



## アナウンサー

天野ひかりさん

テレビ愛知のアナウンサーとして、月曜から金曜までの夕方、「5時です テレビ愛知ニュース」を担当して一年半になるという天野ひかりさんは、取材の申し込みにも快諾をしていただき、五月も終わりの土曜の午後、美合町のご自宅を訪問し、お話を伺つた。

まず、アナウンサーという仕事を就くようになつたきっかけについてお尋ねした。

「今の仕事を希望したのは大学の時ですね。でも、美合小学校や美川中学校に通つていたころ、放送クラブに入つていて、新人アナのころには、随分と苦労もされたようである。しかし、今では

普に入つていましてね。放送室というと小さな箱でしょ。その箱の中から、みんなに伝えるのがおもしろかつたし、おかげで子展のメイン会場のアナウンスを担当したり、校内の文化祭の司会をしたりすることもおもしろいと思いましたね。」

と、小・中学生時代からアナウンサーとしての資質を持ち合わせていたことが分かるお話を聞いていただき、当時の思い出に花を咲かせた。

テレビ愛知のアナウンサー一期生に当たるという天野さん。

「一期生ということで、先輩がいな

住 氏名あまのひかり  
生年月日昭和四十年六月十二日  
所岡崎市美合町生田六十八-二

いというデメリットと、自分で創つていけるというメリットがあつたんですが、デメリットの方が多かったです。局側としてもアナウンサーを育てるシステムが確立していなくて、初めのうちは、記者としての仕事がほとんどで、アナウンサーとしての研修がありませんでしたね。それで、他の局のアナウンサーをつかまえて、教えていたあたり、録画に撮つて、口真似をして練習などもしましたね。」

信がその豊かな表情や明瞭な言葉の端々に感じられた。

「女性キヤスター」。

「事実を伝えるだけでなく、事実の裏側にあるものも自分で取材し、自分で伝えたい」。

そんなふうに語る彼女のさわやかな笑顔と熱っぽい口調がとても印象的で、たちまち彼女の大ファンになってしまった。



一本立ちのアナウンサーとしての自分が、教師側の一方的な教授法であつたり、進級、進学のためのテストに追われたりすることが多い。それに対し、日本の小学校では、子供のアイデアや子供たちの議論の中から生まれた考えを大切に授業が進められているという説明であった。

また、博士の感想に、「日本の学校は、子供同士の人間関係が大変うまくいっている」というのがあつた。さらに、「友情」が立派に育つているのは、日本には、朝の会や学級活動の時間で自己紹介をしたり、友達を知る機会があつたり、清掃と一緒に行う活動が行われたりしているからだと思う」と言われた。

ビデオ撮りに全面的に協力した学校での言葉、外交辞令にたけるアメリカ人の言葉という点を割引いてみても、今の日本の教育のすぐれた点を、教育を専門にしておられる外国人の方に認められて実に嬉しい気持ちになつた。

キャサリン博士らが日本の小中学校のクラスの状況を比較する中で、教育課題を究明しようとするこの研究がまとまるのは、およそ一年先だという。その結果を待ち遠しく思つ



# おかざきの市

「市」といえば、岐阜県高山の朝市や石川県輪島のそれを思い浮かべる方も多いと思う。そして、わが街岡崎にも、古くは江戸時代から引き継がれ開かれている朝市から、戦後まもなく始まつたものまで、その数は少なくない。

岡崎の主な市は五つ。八幡町通りの「二七市」、中町の「一五市」、羽根町の「四九市」、福岡町の「土呂市」、そして、矢作の「三八市」がある。さらに、このほかにも、地区によつては、地元の人たちによる手作りのものもある。

それぞれの市で、露天商の方々にお話を聞くと、共通した言葉が返ってきた。後継者不足や、スーパーの進出、交通事情の変化によりお客様が減少したことなどから廃業する人が増え、露店軒数が減つてきている、という。しかし、常連客との心の触れ合いが多く見られるのは、今も昔も同じで、人情味あふれるやりとりが露店のあちこちから聞こえてきた。



▲ 岡崎で最も古くからある福岡町の「土呂市」



▲ 露店の営業を許可した家康の免許碑



▲ 最も活気を見せて いる八幡町通りの「二七市」



▲ 歩道上に露店が並ぶ中町の「一五市」



▲ 北本郷町の神社境内で開かれている矢作の「三八市」



▲ 工場沿いの狭い道に店が並ぶ羽根町の「四九市」



## ●種目別順位

種目	性別	会場	優勝	2位	3位
陸上競技	男	県 営	矢作	矢作北	竜海
	女		矢作北	矢作	竜海
バスケットボール	男	市 体 育 館	城 北	新香山	岩 津
	女		竜 南	城 北	葵
バレーボール	男	中央総合公園	矢作北	六ッ美	竜 南
	女		竜 南	矢作北	東 海
ソフトテニス	男	中央総合公園	矢 作	美 川	河 合
	女		テ ニ ス 場	新香山	城 北
卓 球	男	矢 作	矢作北	竜 海	葵
	女		矢 作	常 磐	竜 南
体 操	男	北	竜 海	甲 山	六ッ美北
	女		南	甲 山	竜 海
新 体 操	男	北	甲 山	東 海	竜 海
	女		矢作北	竜 海	東 海
剣 道	男	矢 作	矢作北	新香山	竜 海
	女		南	矢作北	常 磐
ハンドボール	男	葵	竜 南	城 北	葵
	女		新香山	美 川	北
軟式野球	男	県 営	南	竜 海	美 川
ソフトボール	女	城 北	竜 海	葵	甲 山
柔 道	男	中 総 体 育 館	竜 海	六ッ美北	竜 南
サッカー	男	県 営・矢 作	北	新香山	南
					六ッ美北

## ●体操競技(個人・1位のみ)

種目	氏名	校名	種目	氏名	校名		
男 子	個人総合	木場 智裕	竜海	女 子	個人総合	倉田英理子	南
	床運動	木場 智裕	竜海		床運動	近藤恵美子	南
	鉄棒	木場 智裕	竜海		平均台	浅野 緑	甲山
	跳箱	木場 智裕	竜海		跳 箱	柴田 史子	南

## ●柔道(個人・1位のみ)

階級	氏名	校名	階級	氏名	校名
軽量級	鈴木 義道	北	中量級	水口兼太郎	竜海
軽中量級	尾崎 諭	竜海	重量級	磯谷 信夫	竜南

第二十七回岡崎市中学校  
総合体育大会の記録



## ●陸上競技

種目	氏名	校名	記録
男	1年 100m	石澤 拓也	矢作北
	100m	今泉 匠貴	美川 ★ 11"2
	200m	川澄剛士	竜海 23"7
	400m	加藤啓一	矢作北 53"8
	800m	川澄光俊	葵 2'04"6
	1年 1500m	今枝俊介	常磐 4'52"6
	2年 1500m	伊藤将生	矢作北 ★ 4'28"3
	3000m	酒井将隆	葵 ★ 9'20"0
子	110m H	近藤	旭 甲山 17"0
	800m R	浅田・石原	美川 1'36"4
	400m R	古谷・伊藤	新香山 50"3
	走幅跳	天野大介	南 5m 94
	走高跳	浅井智人	葵 1m 65
	砲丸投	倉地雅人	常磐 12m 72
	棒高跳	荻野敦史	美川 3m 00
	1年 100m	木村豊美	矢作北 13"9
女	100m	香村久美子	甲山 13"1
	200m	鈴木智実	竜南 26"9
	800m	石田牧子	矢作北 ★ 2'21"5
	1500m	石田美乃	竜海 5'06"1
	100m H	加藤友里	葵 ☆ 15"6
	400m R	西村・浅野	腰 矢作 53"1
	低400m R	山川・木村	滝 本 矢作北 ★ 53"9
	走幅跳	石原ゆき	常磐 4m 60
子	走高跳	野愛子	矢作北 1m 45
	砲丸投	魚野愛子	矢作北 11m 93



春にはタラの芽、夏にはクワガタやカブトなど、もうこのあたりでは見られない珍しい動植物でいっぱいの逍遙林です。今日もここで、元気にしてトレーニングに励んでいます。

逍遙林

・表紙写真  
・表紙詩  
・カット

竜美丘小  
細川小

本多久勝  
赤崎類子  
坂井純子

「火事は江戸の華」といわれたが、一六五七年の明暦の大火灾から「大名火消し」が生まれ、組織的な消防制度が実現した。「町火消し」、町抱えの「鳶人足」とその組織は変遷したが、もっぱら破壊防火で、あまり消火の効果は上がらなかつた。

ここに紹介する消防用手押しポンプは、「竜吐水」と呼ばれるもので、江戸末期にオランダから輸入され、今の時代の「消火器」に当たるものである。上部の取っ手を上下さ

せて、筒先から水を噴き出させるもので、实用性には乏しいが、當時としては新しい道具であった。

火災予防への関心を高める教育は現在も行われ、岡崎市では、昭和二十六年から町や学区を単位として「少年消防クラブ」が結成された。火の用心、夜回り、防火ポスターや習字の展示など、火災予防活動に努めている。

写真のポンプは、今も防災意識の高揚を私たちに呼びかけているようである。

「火事は江戸の華」といわれたが、一六五七年の明暦の大火灾から「大名火消し」が生まれ、組織的な消防制度が実現した。「町火消し」、町抱えの「鳶人足」とその組織は変遷したが、もっぱら破壊防火で、あまり消火の効果は上がらなかつた。

火災予防への関心を高める教育は現在も行われ、岡崎市では、昭和二十六年から町や学区を単位として「少年消防



## 吐水

りゆう  
ど

すい

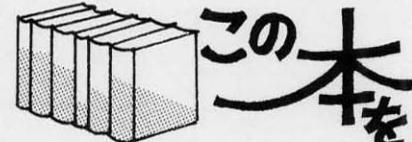
思い出とおみやげをかばん一杯に詰めて、市内中学校の修学旅行が終わつた。昔のそれと比べ、生徒たちの希望を取り入れられ、修学旅行も随分様変わりをした。しかし、いつにおいても、中学三年間の最高の思い出は、この修学旅行であろう。

新鮮な農作物や魚などを求めて昔は、とてもにぎわつていた朝市。今は、その面影が失われつづある。時代の流れと言つてしまえばそれまでだが、何となく寂しい。人ととの出会い、人情味あふれる心のやりとりだけは失いたくない。

シ  
オ  
ス  
ア

スピード、迫力、テクニック、今人気のJリーグ。転がるボールを足で体で、頭で、よくもまあ自由自在に扱えるものだ。さすがプロサッカー、ボールに魂が入っている。

でも、あの動きを目で追うのはなんだか自信がないというのも正直な感想だ。



*生きて今あるということ	中野 孝次	¥1300
海竜社	向井 敏	
*表現とは何か	文藝春秋	¥1200
*男の真剣勝負	津本 陽	¥1400
日本経済新聞社	毛利 衛	¥1300
*ふわっと宇宙へ	朝日新聞社	

*老い甲斐 死に甲斐	三浦 朱門
—よりよく今日を生きるために—	
海竜社	¥1300

日本人の平均寿命は年々伸び続け、高齢化社会に入る。それは長い余生が期待でき、好ましいことなのに、課題は多い。

筆者は、「現在を柔軟で積極的な精神状態で生きること」が活気と刺激に富んだ生産的な生き方の秘訣だとしている。

また、「老化も死も命の健全な過程である」とし、多世代家族同居の価値、祖父母・父母・子供の役割、あり方、かかわり方などを人間的生き方の根源、愛にふれて味わい深く示唆してくれる。